

平成 29 年 9 月 24 日

かながわ環境カウンセラー協議会  
環境教育委員 齊藤 明朗

## 平成 29 年度環境教育インストラクター フォローアップ研修会 報告書

標題の件につき、下記の通りご報告いたします。

### 記

- 開催日 平成 29 年 9 月 10 日（日） 13:00～16:30
- 開催会場 横浜市西区社会福祉協議会（フクシア） 多目的研修室
- 参加者 受講者 7 名 : 大塚留美、掛橋俊彦、峰岸久雄、齊藤好広、三條雅世、河野健三、  
齊藤雅彦  
講師(環境教育委員) : 日吉栄一  
環境教育委員 : 岡本正義、高橋弘二、大竹順之、三島通世、大野昌美、齊藤明朗
- 開催目的  
環境教育インストラクター応募資格取得セミナー受講者へのアフターフォローとして、  
受講者が抱えている課題に対してのアドバイス、あるいは新たな活動のヒントを提供する  
こと。
- 内容要旨
  - 自己紹介  
参加者、環境教育委員、講師の順で自己紹介を行った。氏名と近況を 1 人 1～2 分程度で話した。
  - 持続可能なライフスタイル  
今回は、日常生活の中から地球に無理な負荷をかけない生活態度について食を通じて考え、広  
めていくことを目標に、前半に 45 分の講義・演習を行った後、食に関する持続可能な生活に関  
する議論を行った。講師は食品会社で環境に関する活動を行っている環境教育委員が講演を行  
った。
  - 交流会  
飲み物やお茶菓子を囲み、参加者それぞれの活動や経験談などを伺い、参加者及び環境教育委  
員で意見交換を行った。
- 講座詳細
  - ① 持続可能なライフスタイルと身近なエコラベル : 講師説明  
始めに、平成 27 年 9 月に国連で採択された SDG s (持続可能な開発目標) の 17 の目標について  
説明があり、そのうち、一般市民でも実施できる 12 番目の「責任をもって生産し、消費する」  
に関連する 5 つエコラベルについて、その内容と意義及びその認知度の説明があり、実際にそ  
のレベルの付いた商品の実物を触って確認して頂いた。  
また、CO<sub>2</sub>は水に溶け、CO<sub>2</sub>の解けた水は酸性を示すことを実験で確認し、CO<sub>2</sub>は温暖化の原因  
だけでなく、貝やサンゴを溶かす可能性があるなど生態系にも悪影響を及ぼすことに言及した。
  - ② 議論 : 持続可能なライフスタイルについて

始めに、司会（齊藤）より環境にやさしい消費について、グリーンコンシューマーの10原則の紹介をしたあと、食に関する持続可能なライフスタイルについて参加者が心がけていることについて意見を述べてもらった。

なるべく産地が近隣の食料品を買う、食べ残しはしないようにする、30・10運動（宴会で乾杯後30分間は席を立たず料理を食べることに専念する。その後は自由に歓談し、お開き前10分間は自分の席に戻って、再度料理を食べ、食べ残しをしないようにする）を実行している、などの意見のほか、マイバッグを使って使い捨てのレジ袋を減らすうえスーパーで割引をうける、見切り品を買うことにより安く買い物をする、かつ食品ロスを減らす、など経済的メリットがあると動機づけになるという意見もあった。

## 7. アンケート結果

今回の研修会について回答のあった10人のうち、満足が6人、普通が4人と必ずしも全員満足という結果ではなかった。しかし、身近なエコラベルについては、普段見慣れない物も知ることが出来て、参考になったとの意見が多かった。

また、受講者のニーズとしては、自然環境系の講座及び地球環境や生活環境の講座に多くのニーズがあり、また、子供向けの方が大人向けよりニーズもあるという結果となった。

開催日は、日曜日及び土曜日の午後に希望が多い。

## 8. 所感

今回は、生活習慣と身近な話題であったため、参加者全員の意見が聞けたという点はよかったと思う反面、長い話の人をそのままにしていたため予定時間をかなりオーバーしたこと、出た意見に対する意見を聞くといった議論を深めるということができず、各自の意見が言いっぱなしになってしまったこと、食以外の話をする人がいたり、食に関する話題に絞ることができなかったことなど、司会の力量不足で議論を深めることができなかった。議論を行うに当たっては話題を絞るためのシナリオを用意しておくといった準備不足があった。

それでも、参加者から持続可能なライフスタイルに関して積極的な意見を伺うことができたことはよかったと思う。

また、KECAの連絡網を使って参加案内を行ったところ、2名参加者していただけた。これまで行ってきた過去の受講者に限定したメール案内以外にKECAメンバーの参加を促し、議論を活発化することも検討する必要があるかもしれない。

以上



持続可能なライフスタイルと身近なエコラベル講義風景



エコラベルの紹介



エコラベルの付いた商品の確認



pH 実験の風景



交流会の風景



交流会の風景